

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

特集

プロジェクト科目
初年度の試み

●同志社人訪問

表千家若宗匠

千宗員さん
に聞く



CONTENTS 2006 OCTOBER No.148

『ONE PURPOSE』は学生・卒業生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。
ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

大学の活動



特集

プロジェクト科目 初年度の試み

2

同志社の研究は今

地域社会との交流を通して「社会のお医者さん」を養成する 9

2005年度 大学決算について 11

大学のホームページを活用しよう! vol.1 13

CAMPUS NEWS 16

2008年度生命医科学部、スポーツ健康科学部を新設／山田憂子さんJGSS (Japan General Social Surveys) 公募論文2006で優秀論文／能楽部金剛会が「創立五十周年記念大会」を開催／AIESEC同志社大学委員会日中理解プロジェクト～Development of East Asia Relationship～／オープンキャンパス／新入生の学費について／今出川校地・京田辺校地における教学体制の構築／新任教員紹介／卒業生の新刊図書／本学教員の新刊／2006年度卒業式・学位授与式／Present For You／他

在学生・教員の活躍

OP COMMENTARY 15

「世の中が複雑になっていくことについて」 司法研究科(法科大学院)助教授 COLIN P.A.JONES

MY PURPOSE 27

棒高跳びで学生新記録を樹立 ～目標の4.10mに挑む～

我孫子 智美さん(社会学部社会学科1年次生)

卒業生の活躍



INTERVIEW ～同志社人訪問～ 20

表千家若宗匠
千 宗員さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～ 23

・濱野 邦彦さん(1998年工学部機能分子工学科卒業)

・垣内 美香さん(2001年文学部文化学科美学及芸術学専攻卒業)

ANNOUNCEMENT 25



表紙の情景 [体育会サッカー部]

新監督に望月慎之さんを迎え、2006年度から新体制となった体育会サッカー部。9月3日の京都サッカー選手権大会決勝で、佐川印刷SC (JFL)を破り見事優勝。10年振り9度目の天皇杯出場を決めた。主将の細川史生さん(経済学部経済学科4年次生)は「今年のテーマは“ Make the Style ”。選手自ら考えて動くサッカースタイルを確立させることが目的です。ここ数年は低迷が続いていたので、天皇杯出場を契機に良い流れを作りたい」と話す。今期の目標は、関西学生サッカー秋季リーグで3位以内に入り、全日本大学サッカー選手権大会へ出場することだ。夢へ向けて、熱を帯びた練習が続く。



プロジェクト科目 初年度の試み



今年度からスタートした「プロジェクト科目」は、従来の座学中心の授業とは異なり、実践型・参加型の学習機会を重視した授業科目だ。地域社会や企業から提案された研究テーマをベースとして、学生が自ら考え、自ら動くことで問題発見・解決能力を養っていく。今回の特集では、春学期に行われた授業の中から、4つのクラスを紹介。新しい取り組みの下で、どのような学びが展開されたのかをレポートする。



「教養科目」に 対する新しい アプローチ

同志社大学では現在、2004年度に設置した教育開発センターを中心として、教育内容・方法の改革を進めています。その柱の一つが、教養教育の改革です。教養の

あり方は時代や社会とともに変化していくものです。昔のように、ただ古典の習得だけが教養教育とは言えませんが、現在の学生に求められるもの、すなわち、将来的に職業人として社会で活躍するために必要な人間的基礎能力全般を広く「教養」と捉えました。これを身につけるため、新しい教養教育の「環」として設けられたのが、この「プロジェクト科目」です。

プロジェクト科目は、地域社会や企業の方々から公募したさまざまなテーマについて、学生が主体的に問題解決に取り組む実践型・参加型の科目です。地域社会と企業が持つ「教育力」を大学に導入することによって、

学生は社会の現場から、生きた知恵や技術を学ぶことができます。一方的に知識を与えられるだけの授業ではなく、学生は自身自身で具体的な問題について徹底的に考えます。そして、プロジェクトの進行や予算までも管理していきます。クラスによっては週ごとの成果報告が求められる場合もあり、また各学期の終わりに「プロジェクト科目成

果報告会」での発表を行います。したがって、二つのプロジェクトを通して、リーダーシップやコミュニケーション能力、自己管理能力など、問題解決のためのさまざまな能力が求められ、養成されることになりました。「大学で何をしたいのか分からない」「自信が持てない」という学生にとっても、プロジェクト科目を通して人間的総合能力を陶冶し、各自の適性を見極めることは、将来のキャリアデザインを考える際に大いに役立つことでしょう。

授業を担当する講師の多くは、学外の専門家の方々で、これが本学プロジェクト科目の大きな特徴の一つです。社会で通用する人材育成を担うのは、大学の教員だけに限定する必要はないのではないかと、いう考えからです。私たち教員も、新しい発想や社会の最新動向を学ぶ必要性を感じています。建学以来、同志社には人格主義的な教養を重視する「良心教育」「全人教育」が連綿と受け継がれています。この普遍的な教育理念を多様化し、発展させる試みがプロジェクト科目には集約されているのです。



田端 信廣

プロジェクト科目運営委員会委員長・教務部長

どう関わり、 何を得たかの 検証が重要

一般的に教養教育の科目は、教員の講義を座って聞く「自己啓発型」だといえます。しかし、プロジェクト科目は「自己発見型」。学外から公募で提案されたテーマを、学生が自分たち自身の問題として受け止めて、発信していく工夫が求められる科目です。そのためには、どのような方法でどのようなスケジュールで、そして最終的に何を目標にするかということろまで自分たちの力で決めなければなりません。じつと黙っているだけでは何も始まりません。そういう授業です。したがって、学生にとっては大きな負担がかかります。しかしその分、大きなやりがいがあるのです。

まずは対象についての知識を深めること。インプットした知識をもとに、何度も企画書を練り上げます。そうすると、目標達成のためにやるべきことが見えてきます。つまり、どうアウトプットするべきかが明確になるのです。プロジェクト科目では、この「アウトプット」の作業が重要だと考えています。そして企画書に沿って、誰がどのタスクを担当するかが決まります。リーダーを務める学生には、調整能力やチームをまとめるコミュニケーション能力などが求められます。単なるグループ学習で

あればプレゼンテーションなどの成果だけに注目が集まり、1人のリーダーの頑張りがグループ全体の評価にすり替わってしまうこととなります。それでは個人の成長を促すことにはなりません。そこでプロジェクト科目では、各メンバーがどのような形でプロジェクトに参加したのかを「活動報告書」や「議事録」として詳細に記録しておきます。これには学外調査や文書作成の他、交渉の電話やメールのやりとりも含まれます。そうすれば、何かトラブルが起きた時、どこに問題があるのかを自分たちで振り返り、問題解決の糸口を発見することができます。また軌道修正も可能です。記録を丹念に振り返ることで、学生は自己評価や相互評価を積み重ねて、成長することができます。このプロセスを、最も重要視しているのです。

従来の教養教育は「集積された知の体系化」に重点が置かれていたように思います。しかしプロジェクト科目は「社会に偏在する知の総合化」をめざします。その過程で、自らの人生を自らの力で設計できる人間を育てることが目標です。プロジェクト科目を通して、汗をかき、時には涙しながらも、自らを変革していってほしいと思います。



山田 和人

プロジェクト科目運営委員会幹事・文学部教授



F1を作ろう！

—2006 JASE学生フォーミュラーカー大会出場を目指して—

設計・コスト審査などの競技種目で「ものづくりの総合力」を競い合う大会だ。今年9月の第4回大会には全国約50もの大学が参

加。本学では機械研究会(同志社大学フォーミュラプロジェクト、DUP)が第1回の2003年からチーム参戦しているがまだ好成績を残すには至っていない。そこで、今年度からプロジェクト科目として組織を再編し、(株)堀場製作所自動車システム統括部の中村成男さんに指導頂いて上

位進出をめざすこととなった。今年度大会に向けてのプロジェクトは昨年10月から始まった。前年度の反省をふまえた新車両の企画を立て、部品レイアウトなどの設計を開始。12月には車両コンセプトを決める。今年度は「FORMULA STANDARD」。若い頃F1マシンに憧れて、自らもレースに参加したいと考える50歳代後半の層がターゲットだ。大会ではメーカーに対する仮想プレゼンテーションも競技項目の1つとなっているので詳細な設定が必要になるという。このコンセプトをもとに、車体デザインや車両各部の設計が進められる。ゲストスレーカーによる

知識の習得や基礎実習を経て、春学期に入ると、車両製作が本格化する。走行試験や調整を重ね、大会に備えるというスケジュールだ。プロジェクトリーダーの迫田晃司さん(工学部機械システム工学科3年次生)は「1年間という長い期間のプロジェクトを完遂させるためには、チームの体制づくりが重要だ」と話す。DUPの組織は技術部門(エンジニア、フレームサスペンション、ドライブレイン、ブレーキ、カウル)の製作、財務部門(財政・会計、総務部門(広報・渉外・プレゼン・記録)で構成される。「DUPはプロジェクト科目の履修生と機械研究会の所属学生が合同で

取り組んでいます。中村講師の助言で組織化を進め、チームにまとまりが出てきました」。技術部門を担当するのは主に工学部生だが、文系の学生もメンバーに加わっている。総務を担当する田淵博雅さん(文学部英文学科2年次生)は、横浜での自動車技術展で300社ほどの企業に広報活動を行った。「もともとF1観戦が趣味でしたが、プロジェクト科目のシラバスを読んで、文系の僕が関



中村成男講師
(株)堀場製作所自動車システム統括部

からこそ経験できること。楽しみながら単位を取得できるのも、学生のモチベーションを高めるうえで大きなポイントになっています」。また、中村講師も「皆、理想を追いかけてよく頑張っています。何度徹夜したかわかりませんが、現場で苦労した経験は必ず自分の糧となるはずです。学生が自身の力で実行していく、まさにプロジェクト科目ならではの取り組みとなりました」と語る。

目下の課題は、スポンサーからの資金獲得。車両1台の製作だけで約300万円かかる。「ただ、中村先生のおられる(株)堀場製作所から部品や計測器の提供を受けているので、製作環境は充実してきました」と迫田さん。大会を主催する社団法人自動車技術会も、自動車技術の習得を授業の中にいち早く取り入れた同志社大学を支援しているという。また大会への参加をめざす関西の他大学と合同でプレゼン講習会を開催するなど、学生フォーミュラにおけるリーダー的役割が期待されている。藤井教授は「産業界の要請にこたえることも目的の1つ。技術の公開を惜しまず、同じ目的を持つ仲間とともに技術を向上させていきたいです」と締めくくった。

※同志社大学フォーミュラプロジェクト URL: <http://dup.net/>



藤井 透 工学部教授



迫田晃司さん

「ただ、中村先生のおられる(株)堀場製作所から部品や計測器の提供を受けているので、製作環境は充実してきました」と迫田さん。大会を主催する社団法人自動車技術会も、自動車技術の習得を授業の中にいち早く取り入れた同志社大学を支援しているという。また大会への参加をめざす関西の他大学と合同でプレゼン講習会を開催するなど、学生フォーミュラにおけるリーダー的役割が期待されている。藤井教授は「産業界の要請にこたえることも目的の1つ。技術の公開を惜しまず、同じ目的を持つ仲間とともに技術を向上させていきたいです」と締めくくった。



生活者が町の歴史と文化を守る

― 祇園のママとまちづくり ―

祇園の町は、歴史的な街並みや地域の固有性、文化性の面から「魅力ある都市観光地」として高い評価を受けている。一方で近年では観光客からコンビニエンスストアの乱立などに對して苦情が寄せられている。また街並みの急激な変化に伴って空き巣や放火などの犯罪も増加しているという。これらの原因を究明することが、

「京都の町をもっと知りたい」と思い受講しました」という福山真司さん(社会学部産業関係学科2年次生)や、祇園の料亭で仲居補助のアルバイトをしているので、祇園という町への理解を深めたいと思いました」と話す亀井香織さん(法学部政治学科4年次生)ら受講生は14人。2つの班に分かれて調査テーマを決定するまでには、約1カ月もの期間を要したそう。山田講師は「私からテーマを提示することはあえてしませんでした。時間がかかったことは事実ですが、学生自身で課題を発見し、1つのテーマに集約していくというプロセスを経験してほしいというねらいでし

る調査をもとに、「見さんお断り」が祇園の街並みや文化を持続させてきたのではないかと、という仮説を立て、さくさく1軒の店に向向いた亀井さんらの班だったが、事前のアポイントメントを入れなかったために対応してもらえないという苦い経験をした。そこで調査方法を再考し、山田講師の知り合いにつてを辿つて、ようやくインタビューすることに成功したという。山田講師は「試行錯誤しながらも自分たちでやってみることで学んだことは大きかったはず」と評価。成果報告会直前の授業でプレゼンテーションのリハ

サルを終えた福山さんは「プロ」が持つ意味として、顧客に最上のもてなしを提供するシステムであり、女性が多く働く町の安心安全を担保するための制度であるという結論を導き、その上で、現在では東京資本の参入が著しいこと、また観光地化を推進する行政側と伝統を守りたい地元の人々との間にギャップが生じていることにも言及した。



真山 達志 政策学部教授

山田講師は春学期の授業を振り返って「プロジェクト科目が始まるまで、今の学生さんには物事に対する取り組み方が浅いのではないかと、思いこんでいました。が、実際に接してみると、それは違っていました。これからの道端に落ちていく石ころのような小さな疑問も見逃さない感性を持ち続けてほしい」と期待を込めた。科目代表者の真山達志政策学部教授は「通常の科目では味わえない体験をすることで、緊張やストレスを感じた学生さん

祇園の町にとって緊急の課題となっている。

近代まで祇園の街並みが維持されてきた理由として「しきたり」という伝統的なソーシャルキャピタルの存在があったと考えるのが、都市公共政策研究者の山田奈津さん(アーバンデザイン工房)だ。「しきたり」を守れない者、またその存在を知らない者は町に入り込むことができない。これが祇園という土地への帰属意識や、祇園で生活する者としての自覚と責任感を生むことになっていったのだが、現在

はそれに結びが生じている。そう分析した山田講師は、祇園を支えた「しきたり」を基礎に、歴史的な街並みの維持再生を図るため、本プロジェクト科目を担当することとなった。

たと説明する。

その中で芽生えた疑問の1つが、祇園の「お茶屋さん」によく見られる「見さんお断り」のシス



山田 奈津 講師
アーバンデザイン工房
(都市公共政策研究者)

プロジェクト科目はたった2単位ですが、これほど苦勞するとは思っていませんでした。しかし学外へ出て調査を行ったことで、町がさまざまな課題を抱えていることが分かりましたと振り返った。

そして7月15日に今出川校地で開かれた成果報告会では、「『見さんお断り』に見る京都の町文化」と題し、亀井さんが代表としてプレゼンテーションを行った。「見さんお断り」

が持つ意味として、顧客に最上のもてなしを提供するシステムであり、女性が多く働く町の安心安全を担保するための制度であるという結論を導き、その上で、現在では東京資本の参入が著しいこと、また観光地化を推進する行政側と伝統を守りたい地元の人々との間にギャップが生じていることにも言及した。

山田講師は春学期の授業を振り返って「プロジェクト科目が始まるまで、今の学生さんには物事に対する取り組み方が浅いのではないかと、思いこんでいました。が、実際に接してみると、それは違っていました。これからの道端に落ちていく石ころのような小さな疑問も見逃さない感性を持ち続けてほしい」と期待を込めた。科目代表者の真山達志政策学部教授は「通常の科目では味わえない体験をすることで、緊張やストレスを感じた学生さん

んもいたかもしれません。しかし、それだけに充実感や満足感もあったはず。山田講師は「ご自身が大阪市立大学大学院の博士課程に在籍されていることもあり、学生さんと同じ目線で指導されていました。結果、自主性をより引き出すことに成功したのではないかと感じています。同志社に通っている京都という町のイメージをつかむことは難しいものです。この科目では祇園を中心に調査を行いました。これによって将来、学生さんは「京都で学んだ」という経験を、実感することができよう」と、本プロジェクト科目の成果を総括した。



官学連携による道路管理支援システム開発と 自治体事業評価研究プロジェクト

「京都守くん」



金田重郎工学部教授の情報システム学研究室では、2005年から京都府中丹広域振興局の災害初期対応システム「中丹安心くん」の共同開発に京都府中丹広域振興局と携わってきた。今年度はプロジェクト科目の開始にあたり、京都府乙訓、山城北、山城南、中丹東土木事務所と連携。自治体が使用する新たな道路管理支援システムの開発を目的とした合同

体としての処理が完了する。このように道路管理の実務では多くの情報が行き交うが現状は紙ベースでのやりとりが行われているために検索には膨大な時間を要する。加えて、山城北土木事務所だけでも年間二万件近くの苦情が寄せられるため、非常に手がかかっているという。そこで新たなシステム開発によってこの問題を解決することが、本プロジェクト科目がめざす課題となった。金田教授は「以前開発した『中丹安心くん』は災害時の情報を共有するためのシステムだったので、実際に活用する機会が限られていました。そこで、災害時だけでなく、日常の

することで、過去の案件を統計的に把握するべきであることが明らかになった。これを受けて、システム開発班は土木事務所との協議を重ねながら、画面上で文字情報と地図情報がリンクできる新しい情報システムの開発に取り組んだ。その結果、7月にシステム試作品「京都守くん」が誕生した。このシステムは、インターネット回線を通してウェブブラウザからログインできること、グーグルマップで現場位置を特定し、事案を記録できること、携帯電話で撮った現場の写真を転送しデータベース化できること、工事業者への工事依頼メールを送信管理できることな

編集作業までの流れを説明した。その後京都府側から「地図表示の際に縮尺を固定できないか」「現場位置を点で表示するのはなく、区間で表示することはできないか」など具体的な要望があり、改善策を検討することになった。プログラミタを担当した田中美里さん（工学部知識工学科3年次生）はこれまでの活動を振り返り「土木事務所の方の要望を聞いたものの、こちらの解釈の仕方が少し違っていたことがありました。システム開発側と利用者側との認識のずれを正していくことが大事だと感じました」と話したが、山城北土木事務所の担当者である小野孝司さん



田中美里さん

は「行政としての意見、また土木技術が専門である私たちの意見に対して、学



金田 重郎
工学部教授

プロジェクトが完了した。

住民から道路

の破損等について

通報を受けた場合

自治体は現地に

職員を派遣する。

職員が調査した

状況を集約した後

業者に修復工事

を発注、工事が完了したという報告を受け、自治

道路管理業務にも対応できるシステムに改良する必要があります」と説明する。

授業が始まると、新システムの開発に向けて、受講学生は2班に分かれた。従来のシステムを分析し、新システムに求められるポイントを整理する「政策評価班」と、プログラミタなど実際の開発を担当する「システム開発班」だ。前者は文科系の後者は理系の学生が担当した。

まず、政策評価班は土木事務所の担当者からヒアリングを行った。行政分析方法の1つ「セオリー評価」を用いて課題を洗い出した結果、IT化によって情報を検索しやすく

ど現在業務にかかっている時間を大幅に短縮できる機能を持っている。秋からは山城北土木事務所試験運用を開始し、最終的には京都府全体で利用できる道路運用管理システムのプロトタイプ化を予定しているという。

8月10日には京都府田辺総合庁舎で「京都守くん」についての意見交換会が開かれ、学生が画面上でシステムへのログインから

情報システムづくりを通して、この2連の流れを理解してもらえたのではないだろうか」と振り返った。



世界無形文化財にも指定される伝統芸能「能」。しかし、1999年の調査によると、20歳以下の世代で能を鑑賞した経験を持つ人の割合はわずか2.7%。こうした若者の「伝統芸能離れ」の理由の1つには、能に触れる機会があまりにも少

などを通して能の背景やストーリーを学ばせる「展示ブース」と、能楽師の指導の下、舞謡太鼓を体験させる「体験ブース」を設置した。児童は30人ずつのグループに分けられ、展示ブースと体験ブースを交互に移動した。

と総括する。秋学期にもワークショップは予定されているが、新たな企画を進行するか今回のワークショップの第2弾となるかは学生自身で決めていくことになる。今回の内容についても、学生からはいくつものアイデアが出されていたのだ。山田教授はプロジェクト科目の成果を「個性のものにしたい」と語る。「私たち

の科目は『小学生のための能楽入門プログラム』の開発と研究です。これまで通り、同志社小学校との協力関係は保つていく予定ですがどの小学校でも使える普遍性を持ったプログラムを作ることが目的です。今回のワークショップの

小学生のための

能楽入門プログラムの開発と研究



山田 和人
文学部教授



大元 寧子さん 杉田 紫野さん

模様を自主映画「サークルE」の協力ビデオに収めているので、その映像やこれまでの過程を資料集としてウェブサイトで公開すれば多くの方が利用できる

ないことが挙げられるという。そこで本プロジェクト科目では、将来芸能文化の担い手となる小学生を主な対象として、能に触れる機会を提供することをねらいとする。具体的には「将来の愛好家の卵を育てる」というコンセプトのもと、ワークショップの開催やウェブサイトの構築を通して、能楽入門のプログラムを開発することを目的としている。

春学期の活動の集大成となったのが、第1回ワークショップ「公民館・能楽・能を体験しよう」。7月26日、同志社小学校に3年生の児童60人を集めて開催された。ワークショップの舞台となったのは、同志社小学校の各教室と実際に能で使われる装束や面・パネルの展示



太鼓方井上敬介さんが講師を務め、稽古を受ける際の作法、演目「賀茂(加茂)」の場面の演じ方などを手取り足取り熱心に指導した。最後に児童が発表会を行うと、アリーナに集まった保護者からは拍手喝采が起った。

寧子さん法学部政治学科4年次生は「私たちはリーダーとサプリーダー、広報会計などの分担を決め、タタ表を作成し、作業の進行を管理してきました。スケジュールを守るために、仲間同士で激しく意見をぶつけ合ったこともありました。それが、それが目的意識を持つて取り組めたことが何より良い経験になりました。子供たちも楽しんでくれたようで、ほっとしました」と充実した表情を見せた。

担当教員の山田和文学部教授は「小さなラフルがいくつあったようですが、現場にはつきもの。冷静に原因を洗い出し、修正を加えることが重要となりますが、それが学生たちの判断でできたことには満足しています」

2006年度プロジェクト科目テーマ一覧

テーマ	科目担当者(団体名・企業名等、氏名)	科目代表者(所属・氏名)	開講校地	開講期間
水環境政策～「雨水局」から総合的に考える～	NPO法人 京都・雨水の会(きょうと・あまみずのかい)	総合政策科学研究科 新川 達郎	今出川	春
安心・安全のまちづくり実践研究調査	奥山 文朗	研究開発推進機構 石黒 武彦	今出川	春
玩具産業を通じて学ぶ学生のための 「実践と自立のための玩具企画開発」	株式会社タカラトミー	工学部 片山 傳生	京田辺	春
隠れた京都を探索するー上京を中心にー	出雲路 敬直	文化情報学部 鋤柄 俊夫	今出川	秋
京エコツアープログラム制作プロジェクト	京都市環境保全活動センター(京エコロジーセンター)他	工学部 光田 重幸	京田辺	春
映像で描き出す「京町家文化」	Pang Jun	社会学部 森川 真規雄	今出川	春秋連結
地域(京田辺市)の中小製造業のモノづくり強化への支援	NPO ホンモノづくりプロデューサー開発センター	工学部 佐々木 和可緒	京田辺	秋
京都の文化的景観 その伝統と保存活用プロジェクト	西川 幸治	文学部 武藤 直	今出川	春
京都暮らしの音と映像	NPO 京都の文化を映像で記録する会	文化情報学部 高橋 美都	今出川	春秋連結
生きた「京ことば」映像アーカイブ化プロジェクト	株式会社 空	文学部 橋本 和佳	今出川	秋
感情ロボットを活用した小学生創造力育成講座設計プロジェクト	株式会社ベネッセコーポレーション、株式会社 空	文学部 余語 真夫	今出川	秋
「食育と健康」(薬膳の食養生を中心として)	NPO法人 けいはんな薬膳研究所	工学部 渡辺 好章	京田辺	春秋連結
研究と社会をつなぐ研究会のプロデュース	特定非営利活動法人KGC	工学部 下原 勝憲	京田辺	春
織りの世界ー伝統技術の保存と伝承ー	龍村 光峯	文学部 山田 和人	今出川	春秋連結
知的障害のある人達が暮らすグループホームの設立	特定非営利活動法人 わくわく	社会学部 小山 隆	今出川	春秋連結
サイエンス・メディアーションによる社会貢献	特定非営利活動法人 けいはんな文化学術協会	工学部 田中 和人	京田辺	集中
私が創る京都ー学生による文化イベントの企画・推進	富士谷 あつ子(京都生涯教育研究所)	社会学部 岡本 民夫	今出川	春秋連結
生活者が町の歴史と文化を守るー祇園のママとまちづくりー	アーバンデザイン工房	政策学部 真山 達志	今出川	春
F1を作ろう! (2006 JASE学生フォーミュラーカー大会出場を目指して)	中村 成男	工学部 藤井 透	京田辺	春秋連結
コミュニティのエンパワーメントとNGOにおけるプログラム開発 ～滞日外国人支援プログラム～	榎本 てる子	社会学部 Martha Mensendiek	今出川	春秋連結
官学連携による道路管理支援システム開発と 自治体事業評価研究プロジェクト	工学部 金田 重郎	工学部 金田 重郎	京田辺	春
小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	文学部 山田 和人	文学部 山田 和人	今出川	春秋連結
地域連携子育て支援システムeー子育てネット	工学部 芳賀 博英	工学部 芳賀 博英	京田辺	春
アートに立ち会うー創造の場との共生ー	文学部 岡林 洋、文学部 越前 俊也	文学部 岡林 洋、 文学部 越前 俊也	今出川	秋

T O P I C S

- 2006年度文部科学省『現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)』に、「公募制のプロジェクト科目による地域活性化ー往還型地域連携活動のモデルづくりを目指してー」が採択された。地域社会と大学を往還する連携活動の新たなモデル作りを目指していく人材育成プログラムで、独創性、新規性および充実した支援体制が評価された。 <http://www.doshisha.ac.jp/information/activity/gp/>
- 2006年度文部科学省『特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)』に、「情報環境の整備と成績評価の厳格化ー学修支援システムDUETとGPA得点分布公表ー」が採択された。学修支援システムDUETは、WEB上での履修科目登録、所属学部カリキュラム表提示、授業評価アンケート調査回答、科目ごとの得点分布表示などが可能なWebシステム。 <http://www.doshisha.ac.jp/information/activity/gp/>
- 2006年度文部科学省『法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム』に、専門職大学院ビジネス研究科の「『伝統産業グローバル革新塾』プロジェクト」が採択された。このプログラムは京都の伝統産業の活性化を目指し、革新的でグローバルな事業展開ができる次世代を担う伝統産業経営者の養成を目的としている。 <http://bs.doshisha.ac.jp/> (ビジネス研究科ホームページ)

地域社会との 交流を通して 「社会のお医者さん」 を養成する

総合政策科学研究科
ソーシャル・イノベーション研究コース

総合政策科学研究科に今年度新設されたソーシャル・イノベーション研究コースは、「ソーシャル・イノベーション(社会革新)」の実践家、研究者、教育者を養成するプログラム。市街地や農村に設けた社会実験施設での社会実験を履修要件に取り込んだユニークな研究コースで、文部科学省の平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブにも採択された。その取り組みを、今里滋総合政策科学研究科教員に伺った。

本コースでは社会が抱えるさまざまな問題を正しくとらえ、解決するための政策を立案できる「ソーシャル・イノベーター」の育成をめざすとともにあわせて「ソーシャル・イノベーション」に関する教育研究に当たる人材養成を進めることが目的です。私たちはこうした人材を「ソーシャル・ドクター(社会のお医者さん)」と呼んでいます。医者は、内科学や解剖学などの理論だけでなく、臨床を経験することによって医者として必要な知識や技術を学びますが「社会のお医者さん」にも、これと同じことが言えます。つまり、地域政策論、社会政策論、社会起業論などの基礎理論を学ぶだけでなく、社会革新の実践家、公共問題の当事者、地域住民たちと社会の現場で交流を持つことによって、問題解決に必要な知識や技術を学ぶのです。

具体的なカリキュラムとしては、まずソーシャル・イノベーション基礎講義群(理論編・実践



編を受講します。実践編では「ソーシャル・イノベーションの実践家や公共問題の当事者である市民も講師となり、講義を担当します。そして演習科目では社会実験の企画準備第1次ワークショップの企画と実施を行います。その後、現地調査を経て、社会実験計画を伴った研究計画書を提出します。オフ・キャンパス実験施設で行われる社会実験でデータを獲得し、仮説を検証することが論文の必須要素となるからです。従来のように学生が指導教員と2人で進めるのではなく、人的ネットワークの中で研究基本構想を練り上げていくわけです。実験結果を報告書をまとめた大学院生は、第2次ワークショップを企画・実施します。このワークショップには教員と地域サポーターが参加し、批評や助言を加えます。このプロセスを経て初めて論文草稿執筆作業に移行することになります。論文提出の際には、同時に「私は社会起業

家としてこういう仕事をしたい」というキャリアデザインの提示も求めます。これまで協力いただいた地域やサポーターの方に対し、実践的な知恵や社会貢献でお返したいという願いが込められています。

本コースで重要な意味を持つオフ・キャンパスの社会実験施設は、衣通丸太町下ルの「京町家キャンパス江湖館」、大原三千院の「大原農家キャンパス農縁館・結の家」の2施設です。江湖館は、もともと法衣店だった築約80年の京町家を3カ月ほどかけて改装したもので、「江湖館コア」というポテンティアル・アップが中心となって運営にあたっています。総合政策科学研究科の大学院生の学習施設としての機能の他に、町内会の懇親会や地藏盆など、地域住民のレクリエーション会場としても活用されています。そして、農縁館は、田畑付きの古い農家を改装した施設です。市街地からそう遠くない場所であるにもかかわらず、農村らしい風景が残っている大原は、京野菜の代表的産地として有名です。それと同時に、多くの芸術家が居を構えて

今里 滋

【総合政策科学研究科教員】



いる地域資源の豊富な土地でもあります。6反の荒れ地をトラクターで開墾し、野菜と稲を育てています。収穫した野菜は大原の朝市で販売する他、1口3000円で募集した「野菜ファンド」の出資者に「配当」しています。教員や学生さんの他に大徳寺の和尚さんや京都を代表する料理人の方にも出資してもらっています。現在は1人の大学院生が常駐し、地元の方に教わりながら農作物を育て、田畑を管理しています。

これら社会実験施設を利用して本コースの大きなテーマである「命と食と農」にまつわる研究を行っています。今人々の健康と命が危険視されています。健全な命のあり方を考える時、それと直接結びつく「食」の問題を避けて通ることはできません。その「食」はしっかりとした「農」があって初めて成立するものです。



研究拠点を農村に求めた理由は、ここにあります。例えば、アレルギー症状や小児性の生活習慣病に悩んでいる子供がいます。食事に野菜を増やし、あるいは玄米食に変えることによって、体質が改善されることが報告されています。また、親や友人との関係が希薄になり、その心理的なストレスから部屋に閉じこもりがちになっている子供もいます。彼らを農場というフィールドに連れ出して、他の子供たちと遊ばせることによって、心を開かせ、アイデンティティと協調性を育てると



区の医院を会場に講演会や演奏会を催しています。また、他の院生によって、江湖館の界限に点在する町家ギャラリーを活用し、地域住民に美術鑑賞の機会を提供する「アートトリズム」を通して地域力を向上させる研究や、大原地区に「観光農業」という新しい事業分野を根付かせるための研究などが進んでいます。地域の人々との交流を軸に、大学院生が持つネットワークも生かし、さまざまなプロジェクトを展開していきます。

今後の本コースとしての課題は、やはり「食と農」を中心としたカリキュラムの充実を図っていくことにあります。3月と5月にはイタリア国際スローフード協会の日本担当理事による講演会を開催しました。彼らは、パルマなどに食科学の大学院を創設し、料理人やグルメではない「食の専門家」を養成しています。私たちも、日本の食の中心地である京都において、食を総合的に追究する教育研究を行うしていきたいと考えています。その例として、農林水産省の助成金を利用して「畑から食卓まで 食育ファーム大原」というプロジェクトを企画しています。これは、同志社小学校の児童と保護者を農縁館に招待し、畑の開墾、作付け、収穫から調理までの「連のプロセス」の中で、農の大変さ、楽しさを体験してもらおうというものです。美味しい料理法やものを大切にする心、もてなしの作法なども学ぶことができます。大学院だけでなく、食育を小学校のカリキュラムに導入すること、で京都らしい「食の文化人」を育てることに

いう教育的効果も期待できます。2つの施設を、放課後や週末に子供たちが安心して遊べる場として開放する「あそびの達人教室」(注)という活動はこの具体例であり、院生が研究テーマとして取り組んでいるものです。一方、病院の待合室を社会実験の場として活用するための研究に取り組んでいる院生もいます。公共空間である待合室を地域の患者同士のつながりの場ととらえ、「脳活性塾・脳トレカフェ」と題して、伏見

本コースが養成する人材に対しては、社会

Column

江湖館および農縁館で週に1回平日放課後に開催されている「あそびの達人教室」。地域の子供たちが自由に遊んだり、宿題をしたりして過ごしている。7月22日・28日には江湖館で特別プログラム「京町家であそぼう」が催された。参加した子供たちは院生の指導の下で薪を割り、京町家伝統のおくどさん(かまど)での炊飯に挑戦した。また8月8日・9日の2日間は、農縁館で「大原農家であそぼう」が開催され、農作業や石釜ピザづくりなどを体験した。



(注) あそびの達人教室
「子どもの居場所づくり新プラン」
地域子ども教室事業(文部科学省委託事業
主催/やがい財団・地域子ども教室推進事業
運営委員会)

2005年度

大学決算について

財務部 経理課

2005年度大学決算は、2006年5月11日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月27日開催の法人理事会で承認されました。

2005年度は、教育研究条件の整備充実を図るための事業として、「同志社科目」の新設、教育方法および教材開発に関する支援制度の充実、情報環境を利用した学修支援システムの構築、今出川マルチメディアラウンジの整備などを重点的に実施しました。また、学生支援事業として、学友会解散に伴う課外団体支援制度の再構築、2校地間連絡バスの運行、被災者に対する学費等減免措置の実施、学生寮の改修などを行いました。そのほか、和歌山試験場新設などの入試制度見直し、相互評価および認証評価の大学基準協会への申請、個人情報保護対策、省エネルギー事業の推進、ホームページリニューアルなどにも取り組み、さらに法人として創立130周年記念事業を実施しました。

建設事業では、前年度からの継続事業である臨光館、恵喜館、京田辺第2特高電気室の建設および同志社小学校設置に係る整備事業を完了し、さらにリチャーズハウス建設、サッカー場およびアメリカンフットボール場の人工芝化、学研都市キャンパスの整備、クラーク記念館の保存修理事業などを実施しました。

上記のとおり、2005年度は、2つの学部新設に象徴される大胆な教育・研究改革を推し進めるための財政的支援を図りましたが、一方では補助金や事業収入など外部資金の獲得にも積極的に取り組みました。さらに、前年度に引続く入学者数の安定的確保と入試志願者数の伸びにより、予算段階に比べると大きく収支バランスの改善を図ることができました。

以下、収支計算書に基づき、主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は257億円で、帰属収入に占める割合（学納金比率）は74%と大きな比重を占めています。

手数料は17億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は5億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金、機器備品や図書などの現物寄付金を受入れました。

補助金は42億円で、国庫補助金が主なものです。このうち経常費補助金については、一般補助と特別補助がありますが、予算では確実に収納を見込むことができる額を計上しており、大きく増収となりました。その他の国庫補助金では、施設設備対象の補助金として研究装置、教育装置、情報通信施設などの採択を受け、さらに特色GPや現代GPといった大学教育改革プログラムを実施するための大学改革推進等補助金などを受入れました。

資産運用収入は4億円で、基本金引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金、施設設備利用料収入などです。

事業収入は6億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入、補助活動収入および付属事業収入が主なものです。

雑収入は9億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰出金は7億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

固定資産除却額は11億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

前年度基本金組入額繰延額は1億円で、前年度から繰り延べられた固定資産減少額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

借入金等収入は1億円で、学校債発行による借入額です。

第2号基本金取崩額は12億円で、臨光館の建設資金のための取崩額です。

特定支出準備金取崩額は2億円で、使途が特定された準備金の取崩額です。

収入の部合計は375億円となり、手数料、補助金などの増収により、予算に対して19億円の増加となりました。

支出の部

人件費は166億円で、帰属収入に占める割合（人件費比率）は48%となりました。学部の新設および教員充実計画による増員や、退職給与引当金引当率の引上げに伴う繰入額の増加を行い、前年度に比べて3%の上昇となりました。

教育研究経費は114億円で、経常的な教育研究活動に要した経費で、ほぼ予算どおりの執行となりました。

管理経費は12億円で、大学の維持管理に要した経費です。

繰入金金は5億円で、主に香里中高による第2体育館建設のための法人内資金調達額です。

施設関係支出は41億円で、臨光館、恵喜館その他の建設事業や学研都市キャンパスの整備事業、クラーク記念館の保存修理事業、小学校設置に係る整備事業などによる支出です。

設備関係支出は20億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

借入金等返済支出は4億円で、償還計画に基づき計画通り返済しました。

第2号基本金組入額は、組入計画に基づき、教学施設整備資金12億円、情報基盤整備資金3億円の合計15億円を組み入れました。

第3号基本金組入額は、使途特定寄付金を奨学金基金に組み入れました。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計算に基づき必要額を組み入れました。

特定支出準備金繰入額は3億円で、使途特定寄付金および研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は389億円で、予算に対して4億円の増加となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は14億円の支出超過となり、帰属収入の増加などにより、予算に対して15億円改善しました。しかしながら、累積消費収支差額としては234億円の支出超過額を翌年度以降に繰り越すことになります。

借入金

借入金残高は、前年度末に対して3億円減少し、当年度末では23億円となりました。

自己資金の不足額

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

前年度末の不足額は246億円でしたが、当年度末は11億円増加して257億円となりました。

（本文中の金額については1億円未満を調整しています）

■収支計算書

2005 (平成17) 年4月1日から2006 (平成18) 年3月31日まで (単位:千円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金	25,681,280	25,653,992	27,288
手 数 料	1,324,100	1,653,993	△ 329,893
寄 付 金	408,460	512,383	△ 103,923
補 助 金	3,497,740	4,219,855	△ 722,115
資 産 運 用 収 入	330,530	367,132	△ 36,602
資 産 売 却 差 額	0	12,121	△ 12,121
事 業 収 入	453,980	613,815	△ 159,835
雑 収 入	786,480	864,631	△ 78,151
繰 出 金	730,080	732,470	△ 2,390
分 担 金	128,730	128,730	0
(帰 属 収 入 合 計)	(33,341,380)	(34,759,122)	(△ 1,417,742)
当 期 固 定 資 産 除 却 額	667,900	1,065,673	△ 397,773
前 年 度 基 本 金 組 入 額 繰 延 額	159,740	159,746	△ 6
借 入 金 等 収 入	100,000	82,700	17,300
当 期 未 払 金	0	51,682	△ 51,682
第 2 号 基 本 金 取 崩 額	1,200,000	1,200,000	0
(基 本 金 過 年 度 組 入 額、未 組 入 額 合 計)	(2,127,640)	(2,559,801)	(△ 432,161)
特 定 支 出 準 備 金 取 崩 額	116,930	177,773	△ 60,843
[収 入 の 部 合 計]	[35,585,950]	[37,496,696]	[△ 1,910,746]

用 語 解 説

● 収 支 計 算 書 ●

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては、基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているため、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目を、それぞれ収入・支出の部に計上したのが『収支計算書』です。

● 基 本 金 ●

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。
収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。
第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。
第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

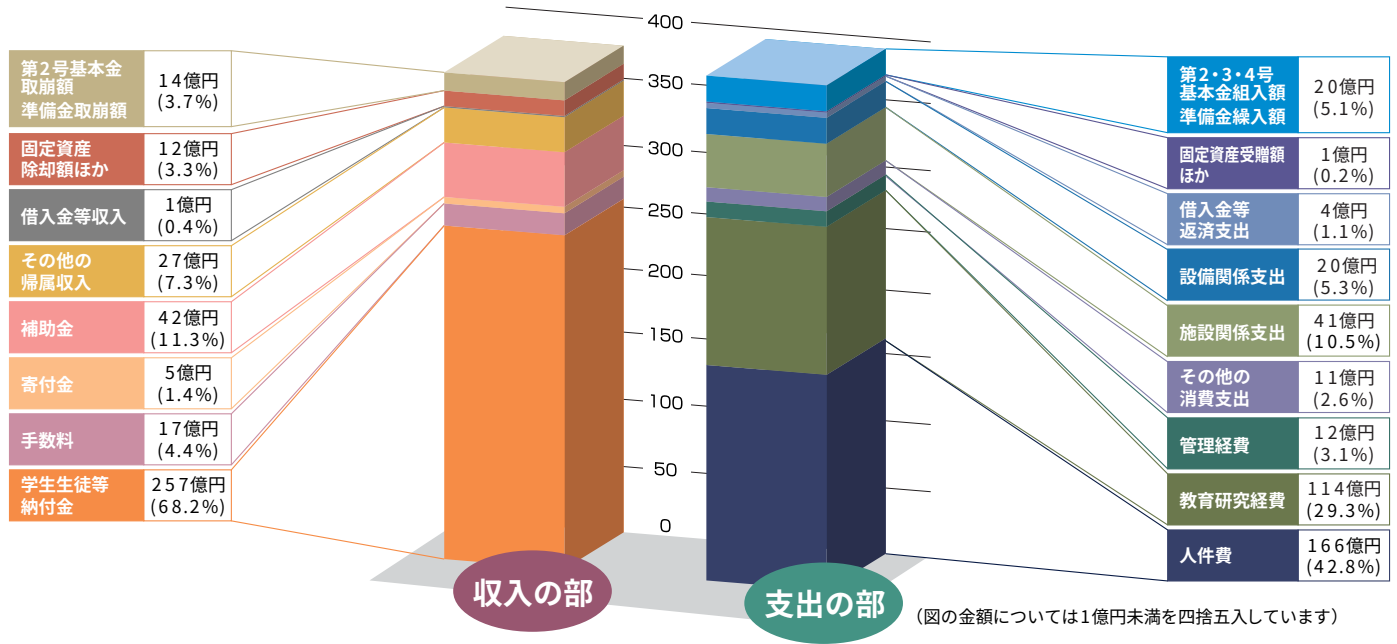
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費	16,622,260	16,636,348	△ 14,088
教 育 研 究 経 費	11,405,030	11,381,774	23,256
消 耗 品 費 他	8,373,950	8,301,073	72,877
減 価 償 却 額	3,031,080	3,080,701	△ 49,621
管 理 経 費	1,171,410	1,221,467	△ 50,057
消 耗 品 費 他	1,098,140	1,150,248	△ 52,108
減 価 償 却 額	73,270	71,219	2,051
借 入 金 等 利 息	80,200	80,196	4
資 産 処 分 差 額	0	399,346	△ 399,346
徴収不能引当金繰入額	54,020	58,590	△ 4,570
徴 収 不 能 額	0	8,205	△ 8,205
繰 入 金	460,000	469,132	△ 9,132
予 備 費	200,000	—	200,000
(消 費 支 出 合 計)	(29,992,920)	(30,255,058)	(△ 262,138)
施 設 関 係 支 出	4,299,190	4,083,745	215,445
設 備 関 係 支 出	2,035,250	2,043,194	△ 7,944
当 期 固 定 資 産 受 贈 額	0	70,288	△ 70,288
翌年度基本金組入額繰延額	0	0	0
借 入 金 等 返 済 支 出	353,480	353,780	△ 300
前 期 未 払 金	68,620	68,624	△ 4
第 2 号 基 本 金 組 入 額	1,500,000	1,500,000	0
第 3 号 基 本 金 組 入 額	8,400	8,400	0
第 4 号 基 本 金 組 入 額	146,600	146,600	0
(基 本 金 要 組 入 額、当 年 度 組 入 額 合 計)	(8,411,540)	(8,274,631)	(136,909)
特 定 支 出 準 備 金 繰 入 額	32,810	322,902	△ 290,092
[支 出 の 部 合 計]	[38,437,270]	[38,852,591]	[△ 415,321]

収 支 差 額 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
(当 年 度 消 費 収 支 差 額)	(△ 2,851,320)	(△ 1,355,895)	(—)
消費支出準備金繰入額	0	△ 66,264	—
消費支出準備金取崩額	1,461,530	0	—
[繰 入 取 崩 後 当 年 度 消 費 収 支 差 額]	[△ 1,389,790]	[△ 1,422,159]	[—]
[前 年 度 繰 越 消 費 収 支 差 額]	[△ 22,031,260]	[△ 22,031,264]	[—]
[翌 年 度 繰 越 消 費 収 支 差 額]	[△ 23,421,050]	[△ 23,453,423]	[—]

借 入 金			
科 目	予 算	決 算	差 異
[前 年 度 末 借 入 金 残 高]	[△ 2,531,390]	[△ 2,531,390]	[—]
当 年 度 借 入 額	△ 100,000	△ 82,700	—
当 年 度 返 済 額	353,480	353,780	—
[当 年 度 末 借 入 金 残 高]	[△ 2,277,910]	[△ 2,260,310]	[—]

■収支構成図

収入合計 375億円 (うち帰属収入 348億円) 支出合計 389億円 (うち消費支出 303億円) (億円)



大学のホームページを活用しよう!

2005年12月にリニューアルした同志社大学ホームページには、大学生活をサポートする情報が満載です。ナビゲーション機能が充実し、必要な情報へすばやくアクセスできます。また、関西の大学では初めて、英語、中国語（簡体字、繁体字）、ハングルの4言語に対応しました。今回は、トップページと在学生のページをご紹介します。

URL [http:// www.doshisha.ac.jp/](http://www.doshisha.ac.jp/)

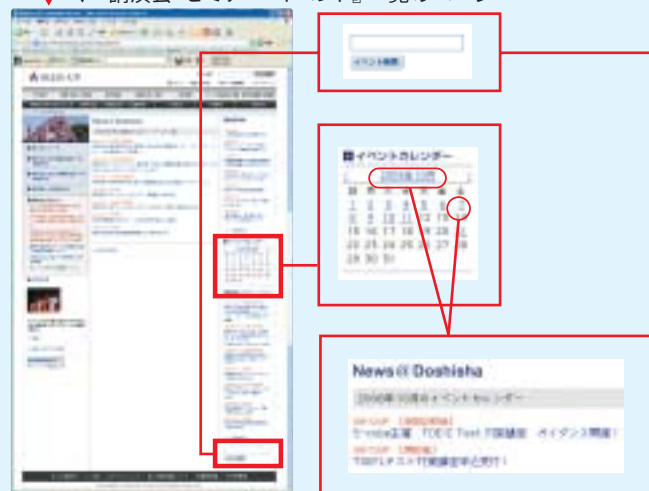


■トップページはホームページの総合案内所



▲同志社大学ホームページトップ画面

▼『講演会・セミナー・イベント』一覧のページ



Q どこから見たらいいのか、ホームページの構成を教えてください。

☞ 機能別と対象者別の2種類のメニューから目的のページへアクセスできます。

●1段目は機能別メニュー

大学紹介／教育(学部・大学院)／研究活動／
国際交流・留学／図書館／キャリア形成支援・就職／
産官学民連携・地域連携／

●2段目は対象者別メニュー

同志社大学で学びたい方<学部入試><大学院入試>
<生涯学習>／在学生／卒業生／一般の方／

Q 探している情報になかなかとり着けないのですが？

☞ サイト内検索(Google提供)で必要な情報にアクセス。キーワードを入力してサイト内検索を行うと、そのキーワードを含むページが一覧表示されます。ただし、検索対象は同志社大学ホームページ内のみです。

Q 大学の最近の動きを知りたいのですが？

☞ 『News@Doshisha』で学内の最新情報を一覧できます。また『社会とのリレーションシップ』では、同志社大学と社会をつなぐニュースなどを掲載しています。

Q 大学で開催されるイベントを知りたいのですが？

☞ 『講演会・セミナー・イベント』で各種イベントの開催情報が確認できます。
キーワードによるイベント検索も可能です。

Q 10月7日のイベントを調べたいのですが？

☞ イベントカレンダーを使えば、指定した日に開催されるイベントを確認することができます。また、月別の検索も可能です。

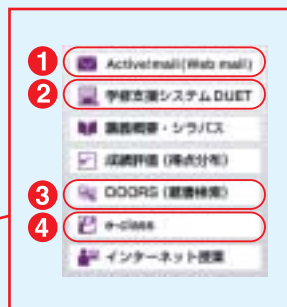
☞ その他、在学生のページの『応援に行こう』や『観に行こう聴きに行こう』でも、各クラブやサークルの試合・行事を紹介しています。



■ 在学生のページは使えるコンテンツが満載



▼便利なメニューボタン



Q 同志社ドメインの個人メールアドレスはどのように使用すればいいですか？

☞『Active!mail』は共有パソコンからでも個人メールの送受信が可能なWebメールです。IDとパスワードを入力すると、どのパソコンからでもメールを確認できます。また、スケジュールの管理などの便利な機能も備わっています。



メニューボタン 1

Q 履修科目をオンライン登録できると聞きましたが？

☞学修支援システム『DUET』は、Webブラウザでシラバスの検索はもちろん、学生個人ごとに履修科目の登録や成績通知表の確認などができ、科目ごとの得点分布なども表示できるWebシステムです。登録中の科目の休講情報や試験情報も一目でわかります。



メニューボタン 2

Q 学内の蔵書をインターネットで検索したいのですが？

☞『DOORS』を使って、両キャンパスの図書館と学部・研究所および同志社女子大学の蔵書を検索することができます。また、貸出期間の更新、貸出中の図書への予約、購入希望の依頼などもインターネット経由で手続きできます。本学の蔵書だけでなく、国内外の大学・機関の蔵書やデータベースを一括して検索できる機能も備えています。

メニューボタン 3



Q 最近、e-Learningという言葉を目にしますが？

☞e-Learningとは、従来のように大学に来て教室で講義を受けるだけの学習ではなく、パソコンとネットワークを利用し、自宅での学習も可能にする新しい教育形態です。『e-class』ではインターネットを介し、授業担当者と受講生を双方向で結ぶ効果的な学習環境を提供しており、インターネットや電子メールなどを活用しながら個別指導を受けることも可能です。

メニューボタン 4



Q 京田辺キャンパスの学生生活に関する情報を知りたいのですが？

☞S-Cube.infoは京田辺キャンパスにおける学生生活のコミュニティーサイトです。京田辺校地学生支援課が、イベント情報や自己啓発プログラムを掲載しています。過去に実施したプログラムのストリーミングビデオも配信。学生生活をもっと充実させたい人に役立つ情報が満載です。

メニューボタン 5



※ホームページに関するご意見・ご質問など広報課へお寄せください（広報課の連絡先は裏表紙に記載）。

世の中が複雑になっていくにつれて

新聞、雑誌、テレビ等で見える限り、世の中が昔と比べて複雑になってきているようだ。ジャーナリスト達はそのように言う

し、報道の中に「多様化」とか「国際化」とか「高度情報通信化」など、現代社会がいかに複雑になっているかと思わせるような表現がよく使われている。インターネットだってあるし、どこでも誰でも入手できるようにになった情報がありすぎる。ついていけなくなる。

僕だって、6年前から持っている携帯電話の機能を使いこなせるようになったのはごく最近のことだ。それでもダイヤル式で育った人間としては立派な進歩だ。多分。

現代社会は複雑だ。昔はシンプルだった。本当にそうかな。

実は「現代が昔と比べて複雑」を当然と前置きする議論に対して、僕は大きな懐疑を感じる。きつと、「現代は複雑」というのは「子供は可愛い」「子供は無邪気」や「命はかけがえのないもの」のように、深く考えないで納得されているコンセ

プトに類するのだろう。しかし、「現代は複雑だ」と考えることについて僕は納得していない。

もちろん、現代は単純とは言わない。ただ、私たちが「複雑」と認識しているものの、例えば、IT技術とか、海外旅行のコース選びとか、毎日変わっていくコースで流れる心配のタネ(レバノンと中東情勢だ！)ホリエモンと資本市場の安全だ！ゴミの焼却場と環境ホルモンだ！(もう古いかな)、

が昔になかっただけではないか。その代わり、私達が当然として思っていることは、昔の人たちにとって非常に複雑だったかもしれない。今、お茶を作るのはとても簡単な作業だ。水道やガス・電気が家まで届かない時代はどうだっただろうか。また、昔(？)の学生はインターネットやコンピュータデータベースなしで一体どうやって研究資料を探していたのだろうか。シンプルではなかったと思う。

家族にしても、離婚の増加、高齢化、少子化等、家族が多様化していて複雑になっているような論調はよく聞かれるが、そ

れの対比として描かれる「伝統的な家族像」は本当にそんなに単純なものだったのかは疑問だ。女性がよく出産で命を落とす時代や、父親が戦争や出稼ぎで長期に家をいかなかった時代や、夫婦が憎しみあっているのに離婚ができない時代も、それなりの、今と違う「複雑さ」があったに違いない。

多分、現代が余計に複雑に感じられる一番大きな原因は、私達がその中で生きていくからだ。自分の生活・人生ほど複雑なものはないのだ。しかも、年をとっていくにつれて複雑になっていくのだ。大学を出て就職したり、結婚したり、子供ができたり、仕事でもめたりするようなことが多くなればなるほど、難しくなっていく。他人の問題や状況に同情ができるとしても、やはり自分の人生が一番複雑だ。そして、過去のことになれば至て他人ごとだ。だから、今と比べて単純に見える。

というわけで、様々な問題「環境問題や社会問題」が議論されている際、「今の世の中の事情が特別だ」という論脈の

中に、「特別な私が経験している、だから特別だ」という論者のスタンスが無意識に含まれているかもしれないということを忘れてはならないと思う。



COLIN P.A. JONES

司法研究科(法科大学院)助教授

カリフォルニア大学バークレイ校卒業。東北大学大学院法学研究科博士前期課程修了。デューク大学ロースクール修了。Simpson Thacher & Bartlett法律事務所、グローバル・クロッシング・ジャパン(株)、Latham & Watkins外国法事務所弁護士事務所などでの弁護士活動を経て現職。

CAMPUS NEWS

キャンパスニュース

2008年度生命医科学部 スポーツ健康科学部を新設

1. 生命医科学部

― 高度先端医療を担う人材の育成 ―

医療に関わる現場では、医学だけでなく工学、基礎生物学、倫理学など、多様な学問との融合を図りながら、病気や健康に関わる問題の解決に取り組むことが求められている。そこでは専門的かつ幅広い知識を活かし、問題解決を指揮する「コンダクター」が必要となる。「生命医科学部」は生命に関する学問領域を扱う生命科学分野に加え、基礎医学や医療に関する知識・技術の修得を目指す。

学科構成：医工学科、医情報学科、医生命システム学科の3学科構成

① 医工学科【医工学系】…材料、機械工学と医学の融合分野の教育研究を行う。再生組織材料、人工骨、福祉機器、医療機器などの研究・開発を推進する。

② 医情報学科【生体情報系】…生体情報の理解に重点を置くバイオインフォマティクス、脳科学分野と生体情報の取得、制御に重点を置く生体計測、医用機器分野を柱に据え教育研究を行う。

③ 医生命システム学科【生物医学系】…生命システムとしての「ヒト」について教育研究を行う。本来ヒトが持つ適応機能を最大

限に引き出す方法や技術の研究・開発を推進する。

学位：学士（理学）、学士（工学）

医工学科および医情報学科：学士（工学）

医生命システム学科：学士（理学）

入学定員：240名（医工学科：90名、医

情報学科：90名、医生命システム学科：60名

設置場所：京田辺校地

2. スポーツ健康科学部

― 人々の健康増進、スポーツの社会的発展に貢献できる人材の育成 ―

現代人の著しい運動能力の減退が課題視されている中、充実した日常生活を送るために「スポーツ・健康科学」への関心、重要性が高まっている。重要性の増す「スポーツ・健康科学」の領域で、専門知識と理論を身につけ、健康増進とスポーツの社会的発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

健康の維持・増進に関する総合的知識と理論の習得、スポーツ医学を活用した科学的トレーニング方法の知識と理論の習得、各種社会スポーツの発展のための環境政策およびそのマネジメント理論の習得を三つの柱として、広く社会生活全般を基盤とした健康とスポーツ、およびその基礎としての身体活動・運動能力を多面的、総合的に考え学ぶ。

学科構成：スポーツ健康科学科（1学科制）

「スポーツ健康科学部」の対象となる学問領域は、基礎医学からスポーツ運動学を介して行政学や社会学にも及ぶ。その意味で、スポーツ健康科学は総合融合型の応用総合科学といえる。それゆえ、学生の科目履修が分散的になることを回避し、卒業後の進路を念頭に置いた一定の体系的履修を促すために「健康科学コース」「トレーニング科学コース」「スポーツ・マネジメントコース」を設ける。

① 健康科学コース【予防医科学系】…身体構造・機能の医・科学的理解をベースにして、健康・体力の維持・増進のための理論と知識および方法をスポーツ・運動と関連づけて学修するコース

② トレーニング科学コース【運動科学系】…的確なスポーツ・運動の実践方法や競技力向上に関係する最先端のスポーツ科学を生涯スポーツにも関連づけて学修するコース

③ スポーツ・マネジメントコース【社会科学系】…多様な社会スポーツ環境の充実・振興のための諸政策や社会スポーツの管理運営、経営などを多角的に学修するコース

学位：学士（スポーツ健康科学）

入学定員：150名

入学試験は一般選抜入試のほか、トップ・アスリートを対象とした特別選抜入試、スポーツ推薦入試、AO入試、学内高校推薦入試などを実施する予定。

設置場所：京田辺校地

※詳細は本学ホームページ

(<http://www.doshisha.ac.jp/>)

をご覧ください。

山田憂子やぐ JGSS (Japan
General Social Surveys)
公募論文(2006)で優秀論文

2006年3月文学部社会科学科社会学専攻を卒業した山田憂子さんの卒業論文「『勝ち組・負け組』論の真実——JGSS-2002データにおける幸福感規定要因分析からの考察——」が、本学の学生として初めてJGSS公募論文で優秀論文に選ばれた。JGSSプロジェクトは日本人の意識・行動の総合的な大規模調査を公開し、その高度なデータを用いた論文を公募している。今回、山田さんの卒業論文が大変優秀であったため、指導教員の藤本昌代社会学部助教授の勧めで応募し、見事に優秀論文に選ばれた。山田さんの論文は、勝ち組・負け組という言葉が数年前から流行する中、女性の幸福感は何によって規定されているのかということに着目し、世代ごとのライフスタイルから幸福感を規定する要素を示した。世代ごとの要因を深く探求した秀作で、審査員からも高い評価を受けた。

能楽部金剛会が
「創立五十周年記念大会」を開催

9月2日、京都市上京区の金剛能楽堂で「同志社大学能楽部金剛会創立五十周年記念大会」が開催された。

能楽部金剛会は1956年に発足。現在、能楽には観世・宝生・金剛・金春・喜多の5流派が存在するが、同志社大学能楽部ではそのうち観世会・宝生会・金剛会の3流派と狂言会が活動している。他流派が東京に拠点を置く中、唯「京都に拠点を置く金剛流は家元金剛永護氏をはじめ同志社出身者が多く、大学との結びつきも強い」という。

今回の記念大会は、金剛会卒業生で結成される「樹会」が主催し、現役部員との共催で催された。能楽「猿蓑上」(いぬのふく)の他、舞囃子や仕舞、連吟を上演。現役部員「樹会」会員の他、



学科産業関係学専攻4年次生は「この6月に他の舞台を終えたばかりだったので準備は大変でしたが、50周年という節目の舞台に立つことができて光栄です」と語る。現在、金剛会に所属する学生は約40人。能楽はおよそ250曲といわれるが、金剛会ではうち約50曲をレパートリーに持つ。

卒業生の能楽師・豊嶋三千春さんから指導を受けた安田さんら4年次生部員が下級生の指導にあたり、「現役学生の多くが出演する『仕舞』は長い1曲の見せ場を切り取ったもので、わずか5分程度の舞台です。しかし、僕たちはその短い時間のために何カ月も稽古を積みま

部長の中山「紀さん(文学部機能分子工学科3年次生)は「きらびやかな装束をつけて舞う先輩の舞台を見て、感動のあまり涙したこともありました。能の魅力は奥深いです」と話す。「また『謡』の稽古ではお腹から大きな声を出すので、ストレス解消にもなります」と笑顔を見せた。能楽部は今後11月に行われる「同志社EVE能」に向け、さらに稽古に励む。最後に安田さんは「地味だと思われがちな能楽ですが、動きのあるもの、華やかな曲もあります。まだ見たことのない人にこそ、そんな舞台を一度見てもらいたいですね」と話した。

AIESEC同志社大学委員会
日中理解プロジェクト
～Development of
East Asia Relationship～

国際経済商学学生協会(アイセック)は世界90カ国以上に存在し、海外インターンシップを通じて世界中の若者と交流を行っている。近年、日中の関係悪化が叫ばれ、反日デモなどのニュースから中国に対してどこか不安で怖い印象を持っていた。しかし活動を通して中国の学生と会ってみると、とても身近ですぐに意気投合した。お互いが何に不安に思っているのか、感じているのか、学生だからこそ率直に話し合うことができた。その経験から、今の日中関係に必要なことは自国の良い面、悪い面を直接触れ合

いお互いに認識しあうことではないかと考えた。頭では理解していても、私たちは日常の中で媒体を通じた情報に左右されてしまいがちだ。そういった「誤解」を解くためにも、本音で話し合える機会を広く提供すべきだと感じた。

そこでアイセクのネットワークを活かし、2006年9月6日、北京の中国人民大と協力して「日中学生シンポジウム巨北京」を開催した。訪中では学生と率直な議論を交わし、今後お互いの姿勢について話しあう良い機会となった。そして11月、このシンポジウムを本学で開催することとなった。ニュースを見ながらなぜだろうって感じていた皆さんに、その疑問や誤解を解いてもらう場となることを目指している。興味・関心のある方はぜひ参加ください。

【シンポジウム日時】

日中学生シンポジウム巨京都

2006年11月11日(土)

14時～17時30分予定

今出川校地 寒梅館ハーディーホール

(文学部文化学科教育専攻4年次生樋口美智子)

オープンキャンパス

オープンキャンパス2006が、7月30日(日)京田辺校地、8月5(土)、6日(日)今出川校地において開催された。各日とも多数の来場があり、7月30日は5710人、8月5日は4177人、6日は4195人と過去最高の参加者があった。入試説明

会、教員による学部・学科説明はもちろん模擬講義、施設見学などたくさんのイベントが開催され、未来のキャンパスライフを「足早く体験できる絶好の機会となった。」



新入生の学費について

2007年度および2008年度入学生の新入生については、7月13日開催の大学評議会ならびに7月29日開催の法人評議会・理事会で承認・決定された。詳細はホームページ

(学部は

<http://www.doshisha.ac.jp/nyushi/>

大学院は

<http://www.doshisha.ac.jp/daigakuin/>

の「学生納付金」の項をご参照ください。なお、在学生の学費についてはすでに入学時に明示しているとおりで、変更はありません。

(財務部経理課)

今出川校地・京田辺校地における教学体制の構築

7月27日の大学評議会で審議承認、7月29日の法人評議員会・理事会で報告了承され、以下の5点の方針が出された。

①1～4年次同校地教育体制のもつ利点を最大限に活かす、かつ学部教育の質的向上を目指して、2013年度から神文・社会・法経済・商学部、1、2年次教育を今出川校地において展開することを基本方針とする。

②学部教育の質的向上のために、今出川校地を拠点とする各学部に対してカリキュラムや、適正規模の教育組織への改編等も含む教学体制の改革案の策定に速やかに取り組むことを要請し、策定された改革案にもとづいて環境整備に努める。

③京田辺校地における教育・研究活動のさらなる活性化を図り、工学部と文化情報学部の教学環境組織を充実させるとともに、スポーツ健康科学部と生命医科学部に加えて新たな学部・学科の設置に向けた検討を開始する。

④両校地での良質な教育サービスと学生サービスを保障するための周辺環境を整備する。
⑤両校地の施設・設備状況や在籍学生数を勘案しつつ、2013年度以前であつても上記6学部の1、2年次教育の今出川校地での段階的实施を検討し、そのための必要な措置を講ずる。(2013年を目処として考え、移転方法の詳細については今後検討)

■新任教員紹介

このたび新たに4人の先生方をお迎えします。

①所属(学科) ②職名 ③主な担当科目

藤原 耕二

(ふじわら・こうじ)

①工(電気)
②教授
③電気機器学1

西村 仁志

(にしむら・ひとし)

①総合政策科学研究科
②助教授
③地球環境教育論

山口 洋典

(やまぐち・ひろのり)

①総合政策科学研究科
②助教授
③臨床まちづくり学

Fanon Che WILKINS

(ファン・ン・チェ・ウィルキンス)

①アメリカ力研究科
②助教授
③アフリカン・ステイアスボラ

千宗員さん に聞く

表千家若宗匠

インタビュー

井坂 佳史さん
法学部法律学科3年次生



井坂●千さんはどのような学生生活を送られたのですか。

千●サークルの仲間と、夏はテニス、冬はスキーを楽しんでいました。ごく普通の学生生活だったと思います。卒業論文では表千家の歴代家元をテーマに研究しました。ちょうど四代の江岑宗左が江戸時代に書いた古文書が、当家の蔵から発見されたのでその史料を読み解いていきました。

井坂●僕は大学のサークルで初めて茶道に触れたのですが、千さんはいつ頃から始められたのですか。

千●本格的に稽古を始めたのは、私も大学入学の頃なのです。よく人から「小さい頃から稽古していたのですか」と聞かれますが、普通の中学生、高校生として学校に通い、スポーツをしたり遊んだりして、稽古に時間を拘束されることはありませんでした。ただ、育った環境の中で茶道に触れる機会はたくさんありましたね。子供用の小さな茶碗や水指を使って、ままごと代わりに遊んでいたことも覚えてます。両親の教育方針だったようですが、決して強制するのではなく、私が自ら進んで茶の湯の道へ入ることを待ってくれたのでしょう。私も自分の子供に対しては、両親がしてくれたように接していきたいと思っています。

井坂●学生時代の一番の思い出というところ、どのようなことですか。

千●興戸駅からキャンパスまでの長い坂を頑張って上ったことをよく覚えています(笑)。他には、夏期休暇を利用して友達と旅行したり、海外にホームステイもしました。大



千宗員さん

【1993年文学部文化学科文化史学専攻卒業】

千利休を祖とする茶道の本家、表千家の若宗匠。父・宗左氏は第十四家元。現在、茶会の開催や献茶の奉仕、茶の湯研究などを行う一方、若い世代が交流を行う青年部の活動にも注力。「表千家不審庵：茶の湯 こころと美」
<http://www.omotesenke.jp/>

学を卒業してからはイギリスに渡り、語学学校に通った後、大学に入学してヨーロッパ美術史を3年ほど研究しました。英語を話せるようになったかったのはもちろんですが、茶の湯の歴史とヨーロッパの美術史との接点を探りたいと思ったのです。留学先へは、日本から携帯用の箱を持っていきました。世界各地から多くの留学生を受け入れていた大学だったので、国ごとの文化を紹介するイベントの時などでは自分で茶を点て、現地地買った和菓子添えて振る舞ったこともあります。ところで、井坂さんはどうして茶道を始めたのですか。

井坂●お茶を点てて心を落ち着かせたいと思ったからです。畳の上でゆったり過ごせ

千宗員さんに聞く



ることも魅力の一つでした。地方出身の部員の中には「京都らしい体験をしたい」という理由で始めた人もいます。

千 ●茶道が始める動機は何でも良いと思うのです。「茶室の美しさに惹かれたでも」「美味しいお菓子が食べたい」でも構いません。入り口は人それぞれです。少しでも興味を持っていたら、私としては喜ばしいことです。こちらでは春と夏の年2回、若い世代を対象として「不審菴短期講習会」を催しています。6泊7日の期間中、お寺で合宿生活を行い、お稽古や講話を通して茶道の修練を図るものです。従来はたしなみを身につけたいという女性の方がほとんどでしたが、今の参加者の方に聞くと、海外に留学したり、海外からの留学生と接して、日本文化の重要性を認識したという方も多いようですね。男性の方も1割ほどいらっしゃいます。

井坂 ●千さんも、海外へ向けて茶の湯文化を発信しようとお考えなのですか。

千 ●英語版のパンフレットやホームページを制作して、茶の湯を理解してもらおうと活動は行っています。ただ、海外で普及させることも大切なことですが、日本で、あるいは京都でしか味わうことができない茶の湯の雰囲気を守っていくことも、一つの重要な発信方法につながるのではないかと考えています。私はイギリス留学中、できるだけ多く、そのものを吸収しようと、あちこちに足を運び、文化や習慣を体験しました。そこで感じたのは、土地と文化・習慣の強い結びつきでした。茶の湯にも、これと同じことが言

えると思います。

井坂 ●英語で茶道の説明するのは、きつと難しかったですよね。

千 ●留学先で「将来、君は何になるのか」と聞かれると、当時は「ティーマスターだよ」と答えていたのですが、「それは何のこと？」とさらに問われるのです(笑)。イギリスは伝統を受け継ぐ文化のある国なので、ある程度は理解してもらえましたが、「そもそも茶の湯とは何かを説明することはとても難しかったです。日本語を使って説明するのもたいへんな事柄ですからね。そうした経験もあり、表千家のホームページでは、不審菴文庫・表千家の研究機関の先生方の意見を取り入れ、流儀の説明や紹介だけでなく、とまらず、茶の湯の起りや歴史的位置づけ、楽しみ方まで広く解説しています。

井坂 ●若宗匠のお仕事とは、どのようなものですか。

千 ●家元である父のもとで、家元の日常の稽古や行事を執り行っています。神社仏閣で行われる献茶式や、各支部で行われる茶会などにも参加します。茶会の道具の準備など、春と秋はとくに忙しい時期なので、全国各地へ行く機会が多いです。また先ほど、卒業論文の話をしましたが、現在も引き続き不審菴文庫で古文書の研究を続けています。同志社での学びは今も役立っていますね。

井坂 ●こちらには内弟子さんがおられるんですね。

千 ●若い人から年配の方まで、30人ほどで

す。家元の仕事や行事の準備を手伝ってもらっています。若い内弟子さんには稽古も大事ですが、日常の手伝いを通じて茶の心を学んでいただいています。私自身も稽古以外に、仕事や不審菴での生活から、日々多くのことを学んでいます。茶道では、「実際に見て学ぶ」ことも非常に大切だと感じています。

井坂 ●表千家の伝統を受け継ぐことにプレッシャーは感じませんか。

千 ●あまり感じたことはありませんね。茶の湯そのものも好きですし、海外に出てみて茶の湯文化を守ることができ意義を実感することができたからというのも理由の一つだと思います。

井坂 ●では、お点前の時にはどのようなことを考えておられるのですか？僕の場合は、何人もの人に見られていると思うと緊張してしまうのですが。

千 ●お点前の最中は無心になります。もちろん、献茶の直前や茶席に呼んでいただいた時など、緊張はします。しかし緊張して当然の場面ですし、緊張することは悪いことではない。しっかり稽古して緊張を楽しむくらいのほうが良いでしょうね。

井坂 ●わかりました、今後の参考にさせて

いただきます。では、茶道で最も大切なこととはいったい何なのでしょう。

千 ●難しい質問ですね(笑)。正式な茶会である「茶事」は、茶の湯の根幹をなすも

一方、もてなされる側としては、亭主の思いをくんで、感謝の気持ちを持つことが大事です。こうして心と心が通い合う「茶事」が成立するのです。一碗のお茶によるコミュニケーションを通じて、他では得られない濃密な時間を過ごすことができます。このような場を作ることが最も大切ですし、また茶道の一番の魅力だと思います。

井坂 ●最後に、僕たち学生にメッセージをお願いします。

千 ●時間に余裕のある時期ですから、勉強でも遊びでもアルバイトでも、何ににおいても後悔のないように、真剣に取り組んでほしいと思います。また、感受性が最も豊かな時期です。多くの人に接して、いろいろなものに触れて、経験を積み重ねてください。そして国際化の時代だからこそ、素晴らしい日本の文化を知ってください。もちろんその1つが茶の湯でもいいですね。

井坂 ●本日はお忙しい中、ありがとうございました。



INTERVIEWER



井坂 佳史さん

法学部法律学科3年次生

同志社大学公認サークル表流茶道同好会「志清会」の幹事長(代表)を務める。11月12日に開催予定の秋の茶会に向けて、部員の取りまとめと稽古に熱が入る。

もてなす側、もてなされる側の心を学ぶことができました。

茶道での大切な心構え、お点前で緊張しないコツなど、とても参考になるお話を伺いました。千さんのお話から、茶道の醍醐味がおもてなしにおけるコミュニケーションだということが理解できました。僕たちのサークルも、茶会を催して留学生にお茶をふるまうことがあります。これからは留学生に対しても、もう少し茶道についてうまく説明できそうです。

「志清会」が11月に予定している茶会は、本席と副席からなる大きなイベントです。この茶会で僕はサークル活動から引退となりますが、今までの経験と今日のお話を糧にして、今後も趣味として続けていくつもりです。

このシリーズは、毎号さまざまな分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたか取材しています。級友の方々にとっては良き近況報告、学生諸君には将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

製造からマーケティングまで 科学を暮らしの喜びへと変換する。

就職活動時。「私の第1志望は、興味ある紙製品の主力メーカーであるA社でしたが、不採用になりました。御社にはその社と競合する商品があります。その商品をもってライバル社を超えたい」。面接でそう明言し、現在の会社採用されました。就職活動を始めた当初は、事前に面接を受ける企業について予習し、面接では「御社の社風は…」などと先方に合わせた受け

位の商品を製造することはできません。必要なクオリティを保ちつつ大量生産を可能にし、利益を生み出す商品設計、生産ラインの構築、マーケティングを考慮したデザインの提案まで、トータルに考える。目に見えない科学をお客様の反応という形で実感できるフィールドです。現場で製造設備を前にして試行錯誤しているときに、一番楽しいですが、マーケティングもおも



答えをしていましたが、軒並み不採用。そこで途中でやり方を変え、「自分が何をしたいのか」をアピールするやり方で臨みました。自分を偽って入社しても続かないし、したいこともできないと気づいたのです。以降、受けた面接はうまくいくようになりました。入社後、望んでいた商品の担当にはなれませんでした。が、早々と「熱さまシート」というヒット商品に関わることができました。この商品の原型は、シートの上にバターのようにジェルを塗ったものです。しかし、どんな素材を用いどれくらいの分量をのせるかなどを検討しなければ、多くの人々のニーズを満たす1万個単

しろい。限られた陳列棚で、小さなパッケージをいかに大きく目立たせるかというアイデアを思いついたときには感激しました。出張先ではおもしろい商品を探してきて、開発に役立てたりしています。当社では毎月1人1件は新商品や業務改善の提案を出すことになっているのですが、「あつたらいいなーをカタチにする」という企業スローガンを考える社内プロジェクトに参加したこともありました。

座右の銘は「遊びのできない人間は仕事もできない。仕事のできない人間は遊びもできない」。学生には勉強だけでなくアルバイトや旅行など、いろんなことができる自由があります。この時期にこそぜひ「偽りのない自分」の基礎を作っておきたいと思っています。

濱野 邦彦さん

【1998年工学部
機能分子工学科卒業】
小林製薬株式会社
技術開発部 薬粧品開発グループ勤務

2年半、上海で工場の立ち上げと品質管理に携わり、異文化の中で得たものがありました。モノが過剰な日本より、モノの捉え方が素直なこと。言わなくてもわかるだろうといった、日本的な仕事のやり方は通用しないこと。ビジネスとして当然のことですね。取材翌日から米国アリゾナへ出張。



私と「仕事」

独特の発想を武器に、
テレビCMの演出を手掛ける。

卒業論文に向けてCM映像を研究していた私は制作に興味を持っていたこともあり、大阪のプロダクションでCM企画のアルバイトを始めた。そのまま就職する道もありましたが、東京でもっと大きな仕事をしてみたいと思うようになり、現在の会社に就職しました。

私は企画職で採用されました。しかし、入社後1年間は企画に携わることはほとんどなく



制作スタッフの1人として資料収集などに奔走する日々が続きました。「走れ!」「返事は!」と指示が飛び運動部のような環境で現場の厳しさを学び、鍛えられました。

CMの企画を立て、広告主に企画コンテとして提案するのがプランナーの仕事ですが、新人のうちは先輩について回るばかり。美大出身の同僚も多いですが私は専門的な絵の勉強をしたことはありません。しかしプランナーは発想が肝心。私のアイデアを面白がってくれる方も増えてきて4年目くらいからようやく私自身の色を出せるようになりました。数多くのプランナーがいる中

から私を指名していただけるのはやはり嬉しいものです。昨年から企画だけでなく、演出も手掛けています。カメラマンや衣装を決め、撮影が終われば映像を編集し、音楽を入れていきます。企画コンテは紙とペンで1人黙々と行う作業ですが演出となると大勢のスタッフと協力する必要があります。きちんとコミュニケーションをとることの重要性を痛感しています。

また、私は普段から思いついたアイデアを携帯電話に打ち込み、未送信メールとして保存しています。それはキーワードだけでも十分。しばらく経ってから見返すと、新たなヒントとなるものがあります。次々と新しい発想が求められるので、神経をすり減らすこともありますが、面白い仕事です。

最近、若い人の中では、夜遅くまで会社に残ったり、休日返上して働いたりすることがどこか恥ずかしいことのように捉えられている気がします。しかし、好きな仕事を頑張ることは決して恥ずかしいことではないと思います。私はこの仕事が好きです。学生の皆さんも、胸を張って、そう言える仕事に就いてほしいと思います。

また、私は普段から思いついたアイデアを携帯電話に打ち込み、未送信メールとして保存しています。それはキーワードだけでも十分。しばらく経ってから見返すと、新たなヒントとなるものがあります。次々と新しい発想が求められるので、神経をすり減らすこともありますが、面白い仕事です。

P R O F I L E

垣内 美香さん

【2001年文学部文化学科美学
及芸術学専攻卒業】
株式会社東北新社 CMプランナー



大人気となった企業キャラクター「ドコモダケ」を考案し、CMソングの歌詞も手掛けた垣内さん。ヒントとなったのは映画『ツインピークス』の一場面とか。「最近CMディレクターが映画監督をすることも増えています。実は、学生時代に何となく書きためていた脚本があるので、私もいつか、映画を撮影してみたいですね」と夢を語る。

C E M E N T

10月30日(月) グリークラブ「ジルヒャー男声合唱団&DMC」18:00～
 11月10日(金) ギタークラブ「第46回定期演奏会」時間未定
 11月23日(木) 邦楽部「第75回定期演奏会」時間未定
 —明德館・その他—
 10月25日(水) 学生保健部会「献血」10:15～
 11月15日(水) 政治学研究会「御厨貴氏講演会」
 13:15～場所未定
 11月22日(水) 政治学研究会「井上達夫氏講演会」
 13:15～場所未定

●京田辺校地—ハローホール

10月11日(水) 軽音楽部「CDコンサート」15:00～
 10月13日(金) LOVE&FREE「後期演奏会」時間未定
 10月21日(土) F.S.S.「1、2回生コンサート」12:00～
 10月28日(土) F.S.S.「後期オープンホールコンサート」12:30～
 11月18日(土) とんがりぼうし「3回生コンサート」12:15～

●学外

10月3日(火)～8日(日) クラマ画会「秋期展覧会」
 ヤマトギャラリー
 10月6日(金)～8日(日) 書道部「二回生展」龍枝堂画廊
 11月3日(金) 能楽部「紅葉会」河村能舞台
 11月7日(火) 交響楽団「第78回定期演奏会」
 ザ・シンフォニーホール
 11月24日(金) マンドリンクラブ「第149回定期演奏会」
 長岡京記念文化会館
 11月27日(月) 能楽部「同志社EVE能」金剛能楽堂

ah

アッセンブリーアワー学生企画募集

各界でご活躍の方々をお招きし、幅広い知識と教養を得られる機会として、アッセンブリーアワーを設けています。形態は、講演会、コンサート、演劇、映画、作品展等多様。

春学期に引き続き、皆さんの意欲と知識によって企画をプロデュースする「アッセンブリーアワー学生企画」を募集します。春学期は計4件が学生企画として採択、実施されました。

【応募要領】

●対象:本学学部生 ●募集する企画の実施期間:11月～1月

●応募期間:10月2日(月)～10月20日(金)

※詳細は、立看板、ポスター、本学HP等をご覧ください。

【お問い合わせ先】

今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

お兄さん、お姉さんと一緒に遊ぼう「寒梅館でクリスマス」

12月に寒梅館でクリスマス向けの楽しい催しを企画し、地域の子もたちと一緒に遊んでくれる学生ボランティアを募集しています。子どもたちが実際に体験できるような演奏会、クリスマスにちなんだリース作りなど、クラブ、サークルのスキルを生かして企画してみませんか?個人の参加も可能です。

【お問い合わせ先】

今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270



同志社ローム記念館 2007年度プロジェクト募集

同志社ローム記念館では、ローム記念館を拠点に活動を行う2007年度の公募プロジェクトを募集しています。デジタルコンテンツを題材としたテーマで約1年間のプロジェクトに取り組んでみませんか。あなたのアイデアを仲間とともに実現するチャンスです。応募要領、エントリーシートなどの詳細は、ローム記念館HP(<http://rohm.drm.doshisha.ac.jp/>)をご覧ください。

【申込締切】11月6日(月) 17:00

<<公募プロジェクト説明会>>

【日 時】10月12日(木) 16:45～17:45

【場 所】京田辺校地 ローム記念館劇場空間

【お問い合わせ先】京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)

TEL:0774-65-7800

【E-mail】jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

※上記以外に学生コアスタッフ主催説明会も実施。

2006年度 同志社大学東京講座

インターセッション

統一テーマ:イスラーム世界の統一性と多様性

B:11月6日(月) アラブ・イスラーム世界を観る眼

四戸 潤弥 神学部教授

C:12月8日(金)東南 アジアにおけるイスラームの統一性と多様性

中田 考 神学部教授

◇第3セッション

統一テーマ:文化情報学事始め

11月17日(金)世界に発信する日本のアヴァンギャルド

—北園克衛とVOUクラブを中心に—

田口 哲也 文化情報学部教授

11月24日(金)京都文化の昂揚時代

—18世紀京都画壇の現代的意義—

狩野 博幸 文化情報学部教授

12月 1日(金)文化遺産の計量分析

—「源氏物語」と浮世絵版画の分析—

村上 征勝 文化情報学部教授

※第1セッション、インターセッションAは終了しました。

また、第2セッションの受付は終了しました。

【お申し込み受付期間】

インターセッションB:10月10日(火)～10月20日(金)

インターセッションC:11月10日(金)～11月20日(月)

第3セッション :10月21日(土)～10月31日(火)

【受講料】インターセッション(B・C) 各700円

第3セッション(3回) 2,000円

【場 所】同志社大学東京オフィス 大セミナールーム(日本ビルディング5階566区)*JR「東京」駅八重洲北口・日本橋口から徒歩5分

【時 間】18:30～20:00

【お問い合わせ先】人文科学研究所 TEL:075-251-3941

【E-mail】ji-jimbn@mail.doshisha.ac.jp

※詳細は、本学HP

(<http://www.doshisha.ac.jp/lifelong/event/koukai/tokyo/>)
 をご覧ください。

同志社京田辺祭2006 (愛称:ADAM祭)

京田辺校地では、11月4日(土)、5日(日)の2日間、同志社京田辺祭2006(愛称:ADAM祭)を開催します。期間中は、学生・教職員をはじめ、けいはんな地区の様々な団体が演奏・模擬店・展示会・体験教室・講演会等を開催し、お祭りを盛り上げます。学生・教職員・市民が一体となって、共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成を目指しています。期間中は、ぜひ、京田辺校地にお越しいただき、祭のにぎわいを肌で感じてみてください。

【日 時】2006年11月4日(土)、5日(日)

【場 所】京田辺校地

【お問い合わせ先】京田辺校地総務課 0774-65-7012

EVE

同志社創立131周年を彩る同志社EVEを、今年も今出川校地を中心に開催します。日常の学生生活・クラブ活動等で培ってきた技術やチームワークを発揮する場として、また学生・教職員・卒業生・地域住民の一体感を生み出す場として、例年多くの方から好評をいただいています。講演会や演劇・演奏会等例年開催されている行事はもちろん、今年も新旧入り混じった様々な企画で皆さんをお待ちしています。

【日 程】前夜祭 11月25日(土)

出店期間11月26日(日)～28日(火)

【場 所】今出川校地

【お問い合わせ先】第131回同志社大学全学EVE実行委員会
TEL:075-251-4452

障がい学生支援スタッフ大募集

～学内外を問わず、関心のある方ぜひ登録ください～

障がい学生(challenged)の自律支援と、学生同士の支え合いを目指し、年間を通じてスタッフを募集しています。未知の世界に触れることで、より成長してみませんか？

《アシスタントスタッフ(有償)募集》

聴覚障がい学生の講義保障・・・ノートテイク(筆記通訳)、
パソコン通訳、手話通訳、
ビデオ字幕付け

視覚障がい学生の講義保障・・・テキストファイル文字校正

《ボランティアスタッフ(無償)募集》

視覚障がい学生への支援・・・ガイドヘルプ、対面朗読、
代筆、代読など

肢体不自由学生への支援・・・車椅子介助、代筆など

ランチタイムのお気軽手話勉強会

(秋学期開講期間10/2-1/22)

毎週火・金曜日のランチタイム(12:30～13:00)

京田辺校地学生支援課内(嗣業館1階)

毎週月・水曜日のランチタイム(12:30～13:00)

今出川校地寒梅館BOX-D

*お昼ご飯を食べながら楽しく手話を学んでいます。

飛び入り参加も大歓迎ですので、

お友達を誘い合っのそいでみてください。

【お問い合わせ先】

今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7410

【E-mail】jt-gakse@mail.doshisha.ac.jp



WOT (ワット) = What's On Thursdays!

“What's on Thursdays!”＝「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、寒梅館ハーディーホールで、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【日 程】10月5・12・19・26日(木)／11月2・9・16・30日(木)

【会 場】ハーディーホール(今出川校地 寒梅館B1F)

Cinema

10月5日(木)『花よりもなほ』(102分)

15:30～/18:30～ 監督:是枝裕和 出演:岡田准一、宮沢りえ

10月12日(木)新作試写会『トンマッコルへようこそ』

18:30～(予定) 出演:シン・ハギユン 【要整理券】

10月19日(木)新作試写会『ただ、君を愛してる』

18:30～(予定) 出演:玉木宏、宮崎あおい 【要整理券】

10月26日(木)新作試写会「Sad Movie」

18:30～(予定) 出演:チョン・ウソン 【要整理券】

11月2日(木)『二人日和』(111分)

10:30～/13:30～/16:00～ 監督:野村恵一 出演:藤村志保、栗塚旭

★13:30の回上映後、主演・栗塚旭さんによるトークショー開催予定。

※詳細は、本学HPや学内掲示板他にてお知らせします。

※10月12・19・26日試写会…10月5日 朝9:00～ 今出川校地学生支援課にて、本学学生・教職員を対象に整理券を配布(先着順)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールで、映画史に残る名作の数々を特集上映します。

【日 程】10月3・10・17・24・31日(火)／11月7・14・21日(火)

【会 場】クローバーホール(今出川校地寒梅館B1F)

10月はグルジア映画祭、11月はイタリア映画特集を予定しています。

※詳細は決まり次第、本学HPや学内掲示板他にてお知らせします。

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

観に行こう聴きに行こうー学生団体10～11月の活動予定ー

●今出川校地ー寒梅館ハーディーホール・クローバーホール

10月14日(土)とんがりぼうし「定例コンサート」時間未定

10月13日(金)neuf「ファッションショー」時間未定

My Purpose

挑戦する人



棒高跳びで学生新記録を樹立

～目標の4.10mに挑む～

小学4年生の頃、友人に誘われて地元のスポーツクラブで始めた陸上競技。当時から背は高いほうで、走り高跳びの選手として、小学校の対抗戦に出場していました。陸上の楽しさを知り、中学校では陸上部に入部。中高一貫の私学だったので、高校生の先輩達に混じって楽しく練習していました。ところが中学3年生の時、有名な棒高跳びのコーチが有力選手を引き連れ、私の高校に赴任してきました。私はその時、棒高跳びという競技を初めて間近で見ました。走り高跳びとはスケールが違う。華がある。私もやってみたい。そんな思いで練習を見ていた私に気づいたコーチが、声をかけてくれました。

練習を始めた当時の目標は、先輩に少しでも近づくこと。基礎体力が足りなかった私は、練習についていくのがやっとでした。ただ、筋力をアップしようとして短期間に無理なトレーニングを行うと、選手生命が短くなってしまうというのがコーチの考え方でした。練習の中で少しずつ鍛えていくやり方が私には合っていたのかもしれない。高校1年生で出場したジュニアオリンピックでは3位、翌年の国体でも3位。この成績には自分でも驚きました。そしてこの競技

でもっと上をめざそうと決心したのです。私の長所は、恵まれた身長。そして助走と踏み切りの良さ。高校3年生では記録も順調に伸び、3つの国際大会に出場してさらに自信ができました。

同志社に入学して間もない5月の大会では4.01mを跳び、日本学生新記録を出しました。今の目標は、日本ジュニア記録の4.10mを塗りかえることです。そして出来ることならば、学生のうちに日本記録の4.36mを跳びたいと思っています。現在は大学陸上部の練習の他に、高校のコーチからも指導を受けているので、勉強と陸上を両立させるのは大変ですが、これからもしっかりと目標を見据えて練習していくつもりです。

※8月19日、北京で行われた世界ジュニア選手権に出場した我孫子さんは、4.00mを2回でクリア。その後4.10mに挑戦したが惜しくも失敗。それでも7位入賞という好成績を残した。



あびこ
我孫子 智美さん
【社会学部社会学科1年次生】

Profile